

# ほっかいどうの社会保障

2011年10月21日

北海道社会保障推進協議会

Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

## 社会保障の拡充求め、各団体が道へ働きかける

### 労働条件改善、介護職員等医行為、基準条例化などで交渉

#### 福祉保育労



10月20日、福祉保育労働組合は、道と団体交渉を行いました。福祉・介護職場の深刻な人材不足や労働実態を告発し改善を求めました。「夜勤は1名で夕方4時から朝10時まで休憩する時間ありません」「正職員でも給与が低いです」「臨時職員が多いです。正規職員が1名であれば臨時職員の職場もあります。夜勤を含め同じ責任が問われています」「人事考課、パワハラもあり、役職者の顔を見ながら仕事をしています。職員間でもギスギスとしています」「メンタルヘルス不全や退職者も多い。人は集まらない

い」など・・・。道側は予算がないと独自施策は示しませんでした。

国に対しては、社会保障・税一体改革に反対すること、介護職員処遇改善交付金の継続と拡充、非正規雇用を拡大する「常勤換算方式」を廃止し正規雇用を基本とすることなどを求めました。交付金については「同じ立場で国にも要請している」との回答でした。

介護職員等の医行為について「介護職員の中にも不安も多い、看護師等を増やしてほしい」と要望しました。道としては、不安はわかるといつつ、来年春までに600人を養成する予定であることを示しました。

また来年4月から始める社会福祉関係基準の条例化について、最低基準を上回るように求めました。「地域主権改革一括法により10月7日に厚生省令（介護施設、障害者施設、児童福祉施設など）が出され来年度実施となっていますが1年の猶予期間もあり、検討しパブコメもしていきたい」と答えました。

## 道も一緒に改悪反対の取り組みを

## 保育団体連絡会



10月20日、保育団体連絡会は、道と交渉し、保育の改善を求めて交渉しました。冒頭、国や市町村の責任と義務を形骸化させ保育を市場化する「子ども・子育て新システム」に対して、道と一緒に反対の取り組みをしたいと申し入れました。

参加者からは「障害施設で働いているが、制度が契約に変わり改悪され、職場はぐちゃぐちゃにされ、悔しい思いをしました。子どもには押しつけないでほしい」「1700億円で、全国10万人の待機者を受け入れる施設が作れます。雇用も生まれます」と現行制度の拡充を求めました。道の担当者は「不安はわかります」と答えました。

保育士の労働条件の改善では、「私は20年以上の勤務で月20万1500円です。初任給は13万2000円で最低賃金を下回る場所もあり親元でなければ暮らせない」「冬ストーブを点けず暮らし展望を持たない保育士でよいのか」など出されました。

また、保育施設基準の条例化については、「東日本大震災の際、保育所の子どもたちは全員無事でした。子どもの数が今の基準の約6割だったことで保育士が助けることができました。基準を引き下げるのではなく、引き上げこそ必要」と訴えました。「保育分野では、給食の外注化が道内でも特区で始まっています。他の仕事が多く入ったので給食の一部が届かなかった。給食職員が別会社に再雇用されたが時給880円が730円に引き下げられた」「給食も保育の重要な一部」だと、保育施設基準の条例化に当たって拡充こそ必要と迫りました。道側も「食育は重要です。外注化で後退するのはよくない」と答えました。

## 11.11 今こそ社会保障の拡充を！学習決起集会

午後6時30分～ エルプラザ・ホール

中央社保協代表委員の井上久さんを迎え学習、「子育て・保育」「生活保護」「低賃金労働」なども報告されます。改悪をやめさせ拡充させるためには連帯した取り組みが必要です。是非たくさんの参加で成功させましょう。